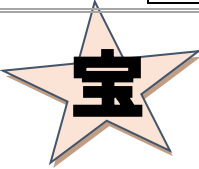


市民の



宝

敬老乗車証制度の改悪 市民負担増を許さない



12月23日の京都新聞の報道を受け、日本共産党京都市会議員団は、当日の市会教育福祉委員会で保健福祉局に「敬老乗車証制度の改悪はすべきでない」と質すと共に、翌24日に以下の団長談話を発表しました。

【団長談話】敬老乗車証制度改悪を断じて許さない

2020年12月24日

日本共産党京都市議団 団長 井坂博文

12月23日、京都新聞が「敬老乗車証の値上げへ、京都市、対象75歳以上」と報道しました。報道では、敬老乗車証の現在70歳以上という対象年齢を「5歳引き上げて75歳以上とする案」が検討され、「利用者が所得に応じて3千円から1万5千円を支払っている負担金は、3千円を5千円にするなど2倍弱とする案が出ている。早ければ来年度実施の可能性もある」とされています。

この報道に関し、当日の京都市会教育福祉委員会でのわが党議員の質疑に対し、京都市は報道に関して、「何も決まったものではない」「2月予算市会に予算化できる状況ではない」と述べつつも、「行財政改革の歳出方針が決まってから段階的に進める」「かねてから見直しが必要と申し上げてきた」と答弁しました。

すでに、市長が諮問した「持続可能な行財政審議会」において、京都市の独自施策削減方針の一環として敬老乗車証が見直し対象とされていますが、市民からは「市民の宝であり、現行制度を守ってほしい」と切実な声が上がっていました。

敬老乗車証制度は、長年にわたり社会を支えてくださった高齢者に対する敬老のための制度であり、かつ、高齢者の生きがい、健康、地域経済の活性化に貢献する重要な制度です。本制度の改悪を断じて認められません。

日本共産党京都市会議員団は、広範な市民の皆さんと力を合わせ7年間にわたって敬老乗車証制度を守ってきており、この制度改悪を阻止する決意です。

以上

市長は、28日の記者会見で敬老乗車証について「受益と負担のバランスや平均寿命の延伸を踏まえて検討」、ICカード化、応益負担の導入は「技術革新も踏まえ、より効率的な導入手法を研究するため延期」としています。市民の世論と運動で「改悪」を跳ね返しましょう。

- 「現行の敬老乗車証守って！」という声を京都市に届けましょう
- 2021年2月4日(木)の市への署名提出に参加を。*12:45～市役所前集会 *13:15～署名提出
- 1月初旬には「敬老乗車証守ろう！連絡会」の新しい署名ができます。これまでの署名と合わせ、2月4日までに1万筆の署名を集めましょう。